

ニュースで頻繁に名を聞くドナルド・トランプ。そのドナルド・トランプについての映画が現在上映されている。

過激な発言や人種差別を遠慮なく行う、政治経験のない不動産会社の社長がなぜ、アメリカの大統領にまで上り詰めることができたのか。選挙前の予想ではヒラリークリントンのほうが圧倒的だったのに、なぜトランプは当選できたのか。彼が行なった悪事やそのからくりを、監督マイケルムーアが暴いていく映画である。

平日の夕方に映画館に足を運んだのだが思いのほか人が多く、中にはアメリカ人らしき人もいた。当選から約2年経つが、やはりいまだにトランプが大統領ということに納得がいていないのだろう。逆にヒラリークリントンが当選していたら、マイケルムーアはこのような映画を作っただろうか。

それにしても、日本ではこんな映画作る人いないよと思った。日本であれば、安倍首相やその取り巻きの大臣たちの不祥事や悪事をあさり、実際に各地に足を運び被害を体感し、となるわけである。もしこのような映画が作られたとしても上映されないだろう。

それ以前に日本人からすると、映画内であった出来事がかなり非日常的に感じる。大所帯での教員たちのストライキや銃撃事件に巻き込まれた学校の生徒たちの抗議、意図的な水道水汚染と想像しがたいものばかり。だがしかし、これらはアメリカで実際に起きたことであり、それに関係があるトランプや他の議員たちが現在もアメリカのトップとして指揮しているとなるとそれは不満が募るのも無理はない。

この映画に対するマイケルムーア自身のコメントとして「この映画が公開されれば、トランプ王国は必ず崩壊する」とあるがたしかに、ここまでこのような事実が明るみになればトランプの大統領としての不適切さも露呈される。

アメリカ政治に興味ある人はもちろん、そこまで興味ない人でも日本ではあまり見ない種類の斬新な映画だから、作品としても楽しめるし興味を持つきっかけにもなると思う。ぜひ見て欲しい。